

第24回 JPHMA コングレス 由井寅子名誉会長の基調講演

4つの症例改善を語る

ワクチン・薬害のケース等

日本ホメオパシー医学協会の由井名誉会長は2日間わたり基調講演をおこなった。由井名誉会長は自ら自然農を静岡伊豆半島と北海道洞爺で展開し、農産物の付加価値をあげるため加工品、化粧品などにも力を注いでいる。世田谷の用賀にはオーガニックレストランを経営している。



由井名誉会長

原病のフタがあるとなかなか治癒に導くことができませんが、医原病のフタをどうやって外し、治療に導いていくかに注目をしていたと思います。原病のフタがあるとなかなか治癒に導くことができませんが、医原病のフタをどうやって外し、治療に導いていくかに注目をしていたと思います。

主訴：子宮頸がんの子供の頃よりインフルエンザワクチンを毎年接種、30代子宮頸がんワクチン2回接種。不正出血、子宮頸がんステージIB3と診断。その後子宮頸がんIV(4)期(末期)になりました。

2回目の相談会で選択したレメディーは子宮頸がんワクチンを希釈振盪したレメディー。するとクライアントからの報告で、好転反応による症状が辛いので子宮頸がんワクチンを希釈振盪したレメディーはとるのをいったん止めたそうです。

子宮頸がんワクチンを希釈振盪したレメディー30Cで反応が如実に出ていたことから、やはりこの子宮頸がんワクチンが悪さをしていたのかと分かった。と由井名誉会長、ホメオパシーは同種療法です。その後、このクライアントはインナーチャイルド(以下インチャ)

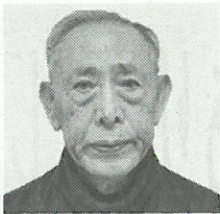
癒しと祝詞心経に取り組み中で子宮頸がんワクチンのレメディーを再開。そうすると、以前のような副作用は全く無く、クライアントからも「もう子宮頸がんのワクチンが体から無くなったと感じる」という報告が。その後、子宮頸がんの経過は良好で、全く癌の形跡が残っておらず、影も無いと医師からも驚かれたようです。由井名誉会長からは子宮頸がんワクチンとインフルエンザワクチンの霊的見解が解説されました。ケース② 40代女性主訴：酷いアレルギーステロイドによって病気がなくなったケース。この方もワクチン・薬害の害のケースであり、そして幼少期に壮絶な事件があり、また母から愛されな

かった深いインチャのケースでもあります。このケースでも原因となったと思われるステロイドを希釈振盪したレメディーをすることで好転反応が強くなってしまいました。由井名誉会長からはステロイドの霊的見解を解説。このクライアントのインチャとリンクする関係が見られました。その後の相談会で「サポート魂の目覚め」が出されましたが、この方はこのサポート魂をとり、インチャ癒しに取り組み、魂の目的である霊性の道を行く中で、霊性が目覚ましく上がって行ったという素晴らしいシェアがなされました。

「私達はこれに生きながら、前世や過去の世の影響を受け、親や先祖の意識の影響を受けている。この影響を受けている。魂の傷を癒すレメディーや、過去世や先祖の意識を癒すレメディーを探し求め、日本中の神社仏閣、霊山を駆け巡って、Japan Spiritualityレメディーを作りました。Japan Spiritualityレメディーのおかげ様で多くの治りにくく、難しい患者さんまで治療に導けるようになったのです」の報告。ケース① 50代女性主訴：子宮頸筋症による大量出血この方は子宮頸筋症で毎月月経が来るたびに大量の鮮血が出て貧血になる。またその多量の鮮血を見るたびに恐怖になりパニックになる。由井名誉会長による第1回目の相談会。そしてZENホメオパシーのアプローチ後、

突然変異 自然と人工は別

河田昌東氏、来賓講演



河田昌東氏

【来賓講演】遺伝子を破壊・操作する技術の何が問題か一河田昌東(分子生物学者)

河田氏は、メンデルの法則の発見から現代のゲノム編集技術までの歴史を語った。

1865年の遺伝という現象の発見に始まり、線(電磁波)照射によるものが長く行われていま

したが、最近では重イオンビーム(原子の粒子)の強力なエネルギーでDNAを壊す技術も開発されました。自然界でも突然変異は起こっているのだと言われていることもあり、自然突然変異と人工突然変異は変わらないと言われていることもあり、自然突然変異と人工突然変異は、厳密に科学的なレベルで言えば異なるのだそうです。自然界では、自然放射線や紫外線などにより細胞のDNAは一日約2万カ所が

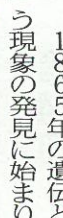
壊れています。このほとんどがDNA一本鎖切断であり、DNA修復酵素でほぼ正確に修復されます。この際にまれに起こる修復ミスが自然突然変異ですが、変わり方は、塩基が一つ異なるものに置き換わる場合がほとんどです。従来の品種改良はこのような現象を利用してきました。

今、重イオンビーム照射とゲノム編集が話題になっていますが、どちらもDNAの二本鎖切断を起こしやすく、DNA修復ミスによる問題(大規模な遺伝子の欠損や他の位置への挿入)が多くあります。しかし、変異が起きやすいことが、経済

性が良い、産業化に向いていると捉えられてしまっています。また、ゲノム編集特有の問題点として、オフターゲット(標的外遺伝子の破壊)、大規模なDNAの破壊、進化に対する逆行(自然突然変異はDNAの機能をしない部分に蓄積されるが、ゲノム編集では機能している遺伝子を破壊する)もあるそうです。そして、遺伝子操作技術は単なる技術的な問題だけではなく、倫理的問題も教えていただきました。すでに、豚の臓器を人に移植すること、皮膚細胞などから卵細胞を作ること、デザイ

突然変異 自然と人工は別

河田昌東氏、来賓講演



河田昌東氏

【来賓講演】遺伝子を破壊・操作する技術の何が問題か一河田昌東(分子生物学者)

河田氏は、メンデルの法則の発見から現代のゲノム編集技術までの歴史を語った。

1865年の遺伝という現象の発見に始まり、線(電磁波)照射によるものが長く行われていま

したが、最近では重イオンビーム(原子の粒子)の強力なエネルギーでDNAを壊す技術も開発されました。自然界でも突然変異は起こっているのだと言われていることもあり、自然突然変異と人工突然変異は、厳密に科学的なレベルで言えば異なるのだそうです。自然界では、自然放射線や紫外線などにより細胞のDNAは一日約2万カ所が

壊れています。このほとんどがDNA一本鎖切断であり、DNA修復酵素でほぼ正確に修復されます。この際にまれに起こる修復ミスが自然突然変異ですが、変わり方は、塩基が一つ異なるものに置き換わる場合がほとんどです。従来の品種改良はこのような現象を利用してきました。

今、重イオンビーム照射とゲノム編集が話題になっていますが、どちらもDNAの二本鎖切断を起こしやすく、DNA修復ミスによる問題(大規模な遺伝子の欠損や他の位置への挿入)が多くあります。しかし、変異が起きやすいことが、経済

突然変異 自然と人工は別

河田昌東氏、来賓講演



河田昌東氏

【来賓講演】遺伝子を破壊・操作する技術の何が問題か一河田昌東(分子生物学者)

河田氏は、メンデルの法則の発見から現代のゲノム編集技術までの歴史を語った。

1865年の遺伝という現象の発見に始まり、線(電磁波)照射によるものが長く行われていま

したが、最近では重イオンビーム(原子の粒子)の強力なエネルギーでDNAを壊す技術も開発されました。自然界でも突然変異は起こっているのだと言われていることもあり、自然突然変異と人工突然変異は、厳密に科学的なレベルで言えば異なるのだそうです。自然界では、自然放射線や紫外線などにより細胞のDNAは一日約2万カ所が

壊れています。このほとんどがDNA一本鎖切断であり、DNA修復酵素でほぼ正確に修復されます。この際にまれに起こる修復ミスが自然突然変異ですが、変わり方は、塩基が一つ異なるものに置き換わる場合がほとんどです。従来の品種改良はこのような現象を利用してきました。

今、重イオンビーム照射とゲノム編集が話題になっていますが、どちらもDNAの二本鎖切断を起こしやすく、DNA修復ミスによる問題(大規模な遺伝子の欠損や他の位置への挿入)が多くあります。しかし、変異が起きやすいことが、経済